

第1回町田市市民センター等のあり方検討委員会 議事録（要旨）

日時： 2020年7月20日（月） 15時30分～17時30分

場所： 町田市庁舎3階 第1委員会室

出席者： 磯崎委員、前田委員、神山委員、安達委員、竹島委員、大倉委員、實方委員
佐野委員、栗原委員
高橋副市長

事務局： 樋口市民部長、中村市民総務課長
（市民総務課）松井、勝野

オブザーバー： 中坪市民協働推進課長、白川市民課長、牧マイナンバー担当課長
山之内南市民センター長、坂上鶴川市民センター長

- 次第：
- 1 挨拶
 - 2 委嘱書公布
 - 3 委員・事務局の紹介
 - 4 委員長の選任
 - 5 議事
 - (1) 「(仮称) 町田市市民センター等の未来ビジョン」策定の目的と背景について
 - (2) 市民センター等（市民センター・連絡所・コミュニティセンター）の現状と課題について
 - (3) 策定における検討の方向性及び考え方について（意見交換）
 - 6 その他

- 資料
- ・資料1：町田市市民センター等のあり方検討委員会委員名簿
 - ・資料2：町田市市民センター等のあり方検討委員会設置要綱
 - ・資料3：「(仮称) 町田市市民センター等の未来ビジョン」の策定について
 - ・資料4：町田市公共施設等総合管理計画（概要版）
 - ・資料5：町田市公共施設再編計画（概要版）
 - ・資料6：町田市の特性に関する参考資料
「(仮称) 都市づくりのマスタープラン」策定に関する特別委員会より抜粋
 - ・資料7：市民センター等の現状
 - ・資料8：2019年度行政窓口・集会施設に関する市民意識調査報告書（概要版）
 - ・資料9：行政窓口・地域センターの業務と配置の再構築に関する調査研究

1 挨拶（高橋副市長）

2 委嘱書交付

3 委員・事務局の紹介

4 委員長の選任

○全会一致にて磯崎委員を委員長に選任。

■委員長挨拶

新型コロナの関係でさまざまな活動が制約されており、施設においても、対面型・接触型のサービスがなかなかできないといった面もあろうかと思う。今後、ウィズコロナ、あるいはアフターコロナの時代に、こうした施設がどうあるべきなのか。リアルとデジタルを組み合わせ、いい施設あるいはいいサービスを提供する、ということが大事であろう。

○要綱の第5の3の委員長代理の規定に則り、事務局より委員長に委員長代理の指名を要請したところ、委員長は前田委員を指名。

5 議事

(1) 「(仮称) 町田市市民センター等の未来ビジョン」策定の目的と背景について

○事務局より、資料3「(仮称) 町田市市民センター等の未来ビジョン」の策定について、説明を行った。

(2) 市民センター等（市民センター・連絡所・コミュニティセンター）の現状と課題について

○引き続き事務局より、資料7「市民センター等の現状」、資料3-2「計画の方向性・考え方」追加資料、資料8「2019年度行政窓口・集会施設に関する市民意識調査報告書概要版」について、説明を行った。

(質疑)

■委員

今回の委員会のポイントは市財政が厳しい中で、高齢化でさらに歳入が減っていくが、公共施設をどれだけ減らしていくかが大事で、その分ソフトの面で他の形でサービスを継続していくということでのよいのか、どうか。4割近く公共施設を減らさなくてはいけないということを行った方がよいと思う。98万㎡の半分近くが学校であるので、どうしても学校がフォーカスされる。

■事務局

市の全体の方向性を見据えると、施設をこのまま維持することはできないというのはおっしゃる通りである。現状の市民センターを見ていただいて、未来から見るとこういったところは集約・減らしてはよいのではないか、一方こういったサービスは身近で受けられる方がよいのではないか、といったところの意見をいただきたい。

■委員

この委員会のスコープとして、市民センター等というこれまでのハコを使った今後の機能という点も含めて議論するということがよろしいか。資料の市民意識調査の7ページ、コンビニ交付の利用状況について、これまで利用したことがなく、今後も利用するつもりもないという回答が34.6%いるがこの背景も含めなぜこのような回答となったのか。

■事務局

1点目については、今後の行政窓口の役割も含めて考えていただくということである。2点目の市民意識調査のコンビニ交付について、今後利用するつもりがないと答えた方の理由として、マイナンバーカードがない、作るのが面倒、つくりたくないという回答が33件あった。あとは、行政窓口に行くからというのが31件、行政窓口の方が安心、個人情報の安全性、行政窓口が近くにあるから、利用方法がわからない、コンビニ交付を知らなかったという意見もあった。

■委員

資料の4と5にあるような公共施設のあり方に話が当然膨らんでいく。逆に市民センター等だけを抜き出して議論できるのだろうか。

基本的にコンビニに大きくシフトするということがありうると思うが、コンビニはあくまで民間の事業者の施設なので閉店することもありうる。町田市民が歩いて10分以内のところにコンビニがどれだけあるのか、といったデータをお示しいただきたい。

学校に限らず、これから施設を整備するときに、多機能化や複合施設化といった発想があるかと思うが、将来整備してしまつて転用しづらいということにはならない、新しい公共施設の作り方といったことはお考えになっているのか。

■事務局

1点目の再編の話について、議論の背景を考えた時に、公共施設の維持が今後できなくなる点について、検討委員会でも議論していただく割合が多くなると考えられる。公共施設の再編、ICT化の進展の中で、公共施設を減らしていくといった経営的な視点からの議論とともに、新たな価値の創造という点からもご議論いただきたい。

2点目については、資料の9の2017年度時点でのコンビニ交付を実施しているコンビニの徒歩カバー圏域の図では、市街化調整区域を除くほぼ全域において徒歩10分以内でカバーできている状況になっている。

3点目についても、石川県の中学校の体育館を地域の施設として整備し、さらにカフェも併設している事例をあげているが、幅広にご検討いただきたい。

■委員長

市民センター等だけでなく、幅広に議論してよいということである。公共施設のあり方、新しい公共施設の整備の仕方についてもご意見いただければということによろしいか。

■事務局

市民センター等からめてということにはなるが、幅広に検討いただきたい。

■委員

これから先に学校の統廃合で集約化という話も進んでいるが、小山ヶ丘小学校は、確かに開放的であり、ゆくゆく少子高齢化が進んできた場合、高齢者が集まって大いに活用できるという多目的な用途を秘めている。学校の建替えとなった場合は、そのようなことを我々も提案したい。

■委員

行政の縦割り社会を崩さないと、利用者の目線からはいろいろ矛盾が出てくる。一つの問題に対して複数の部署が関与してきたときに、行政の中できちっと調整していただいて公共施設ができあがったのか。

一つの建物の中に市民部と他の部署の施設が共存する形となれば、利用者の目線からすると、同じ所で

一気通貫に利用できるのが便利になる。利用者から見ればそこに行けば地域の必要な機能も揃っているといった、本来の公共施設のあり方を住民から見たら合理的に考えられる。予算の問題もクリアされるし、ただ単に潰すことにもならない。

コンビニについては、公共施設のあり方でコンビニを利用するのは合理的であるが、コンビニは民間なので、セキュリティが課題であり、利用する方では便利だが、その不安をどう払しょくするかといった視点で意見を述べていきたい。

■事務局

行政の縦割りの部分について、厳しい意見をいただいた。この関係の議論を進めるにあたっては、今までのやり方では難しい。市役所の中の連携は我々の方でさせていただくので、行政の縦割りの部分を越えたところで意見をいただきたい。

コンビニの関係で、個人情報、情報セキュリティは実際守られるのかという点について、いろいろな可能性をご指摘いただき、どうしたら利用が進むのかという視点で考えていきたい。

(3) 策定における検討の方向性及び考え方について（意見交換）

■委員

相原地区は、人口比等を考えると、センター的なものは要らないのではないかということになってくるが、高齢者も多いし、行政窓口や集まれる場所がとても必要なものとなっている。

地域にもよるが、子どもセンターにおにきている子どもたちのほとんどは八王子市と相模原市となっている。となりの県や地域と協力しながら、お互いにお金をだしあうということもあってもよいのではないか。

相原駅の東口を出て一軒コンビニがあるが、小山市民センターまでコンビニはないので、コンビニ交付の利便性については成り立たない。マイナンバーカードについて周りに聞いたが、コンビニはアルバイトが多く、できないことをちゃんと教えていただけず、年寄り少し邪魔扱いされるので、やりにくいという話があった。

堺市民センターの周りに買い物に行くところが少ないため、市民センターの中に民間の施設が入ってもらえれば、費用は払うという人が結構いる。建物を貸してお金を稼ぐという考え方もあってよいのではないか。

相原地区では3階建て以上の建物が堺市民センター以外にはない。災害発生時にみんなが行く場所がないので、建物を建てる時には、災害の時も考えて、場所、機能を考えてもらいたい。

■事務局

地域の実情については、この場でも意見をいただきたいし、今後市内各地で実施する予定のワークショップ、インタビューの結果もフィードバックしていきたい。

共同設置についても、それぞれが相互に利用し合うという可能性も含め、ご議論いただきたい。

コンビニの件についてもいろいろご心配もあろうかと思われるので、そうした点もご指摘いただきたい。

民間施設については、この市庁舎もコンビニやカフェが入っており、家賃をもらいながら、事業者が運営している。少し前ではそういったことは考えにくかった時代もあったが既に実践している。

防災拠点については、市民センターの避難所機能の重要性は高まってくると考えられる。

■委員

私の推測では、少なくとも数年、場合によってはコロナの環境をずっと背負ったまま、全てのものを考えていかなければならない。コロナと上手に共存しながら全ての行動計画を実施していくということになると、方向感としては既に想定されているものでよいが、コロナがどうインパクトを与えるのか可変部分として考慮した方がよい。

■委員長

3月以降の集会施設や行政窓口機能の利用者はどういう状況なのか。ウィズコロナの視点を今後の検討の中で、どれだけいれたらよいのか。

■事務局

コロナ禍での窓口の状況について、コンビニであればマイナンバーカードを保有しているのが前提、郵送となれば郵便局で小為替を買う必要があり、現実的に市民のみなさまの手間を考えると厳しい状況であった。本当に必要なものについては、窓口に来ざるを得ない人が多かったのが現状であった。

給付金の関係でマイナンバーカードを取得したいという人がとても多かったが、いろいろな状況が重なって、来庁いただいた方にその当日中に用事を達成できなく、お帰りいただいた状況もあった。

市民センター等のあり方を検討する視点としてコロナの視点も重要となってくると考えている。ここでビジョンをつくるが、2040年まで何も手を加えないかということ、そうではなく、その時々にあった見直しをしていく必要があると思っている。

■委員

市民センターのあり方を考える際に、民営化や他県・他市との共同というのはすごく賛成である。

私は子どもセンターを利用していたが、その中で、コミュニティが出来あがっていき、地域活動に参加していくといった、そういう形も増えていた。各地点に市民センターがあるが、民間の力を取り入れて、高校生・大学生も集まれるようなカフェが入るといった再編を行っていく。具体例としては、子どもセンターまあちの中に民間のカフェが併設され成功しているものも見ている。

小山田桜台は人口も少なく、若者も少なく、近くに何も無いところだが、もっと集約したものを出していただければ成立していける。ローカル化ともいわれ、地元での支え合いも言われている。

■委員

市民センターは使ったことがなく、どのような機能があるのかよくわからない。民間に入ってもらって、若者が使う施設にすることが大事である。

■委員長

若者の居場所はどうしたらよいのか。カフェやスポーツジムのようなものもよいかもしれない。

■委員

町田市の事業評価に参加させていただいたときに、生涯学習センター事業で議題となっていたのが、若者の認知度が低いのに、かなり予算がかかっている点である。若者に使われる使い方を考えるか、要らないのではないかという議論をしていた。ただ、利用率が低いから排除してしまうのではなく、意識調査でも10～20代の回答が少ないということもあったので、内容等を我々世代に知らせて欲しい。

■委員

町田をみると、各地域で地域特性が異なり、住んでいる人のニーズも異なるので、ある程度、その地域のニーズにあった施設・要件を満たすような内容を各市民センターやコミュニティセンターに配置する

と、地域の人は魅力を感じて利用するのではないか。

高齢者やお子さんは距離的な問題が出てくるので、分散している地域の施設を中心にする。若者については、町田市の都市核に魅力のある内容、土日や夜遅くまで開くなど若者の行動体系に即したサービス体系にすると、行動力もあるので、地域に分散していなくても、市内のいろいろなところから集まって交流ができる。

地域特性は毎年変わるので、きちっと調査やニーズ要件を把握しながらやっていくことが、大変であるが大事である。

■委員長

地域特性をしっかりと考える、世代によってニーズが異なるという点が重要。本日は充実した議論ができた。次回以降も議論を重ねていきたい。

6 その他

○特になし。

以上